

ベテランの体験と
若年のICTスキル

「コラボ」

相互補完的コミュニケーション
づくりのイベント

経験年数を超えた教員の相互授業づくり

神谷利宏

今から一〇年ほど前、「生きる力」を育むために、「体験的な学習」を重視する教育課程が盛んに行われていました。そして、ほとんどの社会人が携帯電話やスマホを身につける現代では、ICTの活用も大きく取り上げられています。最近の大学の授業ではICTを積極的に学生に取り組ませています。その結果、ICTが堪能な若い先生が数多く現れています（もちろんベテランの先生の中にも得意な先生もおられますが……）。

そこで、ベテランの先生と若い先生の協力する授業づくりを、「コーチン

グ」の視点から考察してみます。

マルチメディア教材

ICTは実体験には勝てない

私はライブカメラを見るのが好きですが、パソコンの画面の上で富士山を見て、富士山の様子はわかりませんが、その雄大さは伝わってきません。やはり、富士山を見るのは実際に目で見ることには勝るものではありません。しかし、ICTを活用すれば、どこにいても、どんな時間でも見ることが出来ます。必要に応じて両者を使い分けることが大切です。

ベテランの先生は、今までの経験か

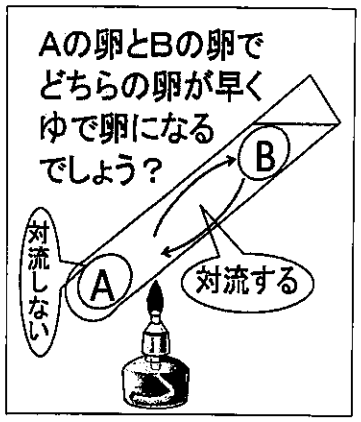
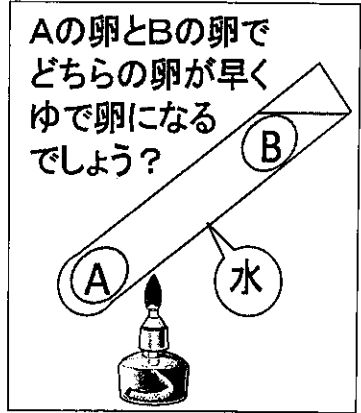
ら、多くの人脈をもっていたり、過去の豊富な経験があります。

まず、ベテランの先生も若い先生もお互いのよさを知り合うことが大切です。そして、お互いに不十分な部分を補うことでよい授業は生み出されます。例えば、小学校三年生の社会「店ではたらく人」で、スーパーマーケットの学習を行います。スーパーマーケットの見学交渉を行った時、それにふさわしい講師を探すのは豊富な知識と経験が必要です。ですから、この部分はベテランの先生が中心になって行います。

若い先生は、ICTを駆使して、店の様子や流通に関して写真や動画を探して、教室でいつでも疑似体験や振り返り学習に使えるようにします。
学習課題（クイズ・ゲーム）づくり
子どもは、クイズやゲームが大好きです。この好奇心を活用してみましよう。

問題解決学習の導入では、子どもにも気づきを与えるような仕掛けが重要です。そのコンテンツを考えたりするのは、ベテランの先生の役割です。

小学校四年生の理科「水の温度と体積のかわり方」の授業では、下図のように試験管の中にAとBのうずらの卵を入れた実験器具を開発しました。「どちらの卵が早くゆで卵になるでしょう？」という課題を与えました。課題がより子どもに伝わりやすくするために、ICTを活用するのは、若い先



生の役割です。パワーポイントを使って、提示方法を工夫したり、途中の水の対流の様子をアニメーション化した後で振り返ったりすることで意欲的な授業、知識の定着にもつながります。

大切なことは、ベテランの先生も若い先生も、お互いのよさを理解し、十分な面を補うような協力体制が欠かせません。そして、ベテランの先生がコーチとなり、若い先生のよさを引き

出し、教材研究や授業づくりの意欲を向上させることです。

ベテランの先生は、日頃から若い先生の話をよく聞き、その得意分野を把握しておくことです。そして、仮に知っていても、若い先生にパソコンの使い方などを聴いたりするのがいいでしょう。若い先生も「どうしてこんな課題を考えたの？」などと尊敬の眼差しで、ご指導をいただくという態度がよい関係につながります。

〈愛知県刈谷市立かりがね小学校〉